



2024年度環境経営レポート

事業年度 2023年12月1日～2024年11月30日

作成日： 2025年2月10日

更新日：



《ごあいさつ》

品質の高い製品を、納期を厳守しながら、しかも低コストでユーザーの皆様に。
お客様との信頼関係は、ベーシックな部分を充実させることから始まります。
私たちサン塗装ではTQMのために会議を定期的開催、つねに最善のシステムを模索し、
信頼にお応えできる製品づくりに前向きに取り組んでいます。
スチール塗装を中心に、より精度の高い製品をお届けしたい。
私たちが追い続けるテーマは「信頼」です。

環境経営方針

<経営指針>

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、金属製品の塗装等の事業活動における環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組めます。

サン塗装株式会社

代表取締役 関口 恭正

<行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組めます。
 - ①電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減(ボイラー、乾燥炉)
 - ②廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)の推進(残塗料の再利用など)
 - ③産業廃棄物の管理の徹底化(廃シンナー・排水処理の汚泥など)
 - ④節水
 - ⑤生産経費の削減と情報発信(水処理設備の改善・HPの再構築)
 - ⑥製品サービスへの環境配慮(リサイクル情報の提供・包装材の簡易化の提案)
 - ⑦化学物質の管理の徹底(数量管理・保管管理・不良の低減)

これらについて環境経営目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
3. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。



制定日：2007年12月8日

改定日：2019年8月26日

代表取締役 関口 恭正

□組織の概要

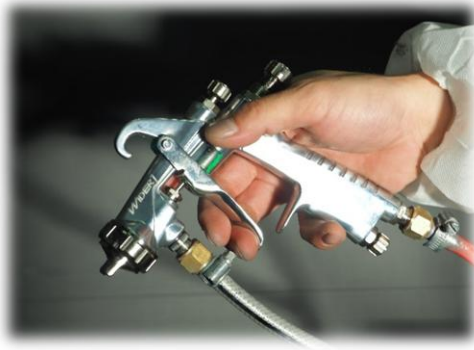
- (1) 名称及び代表者名
サン塗装株式会社
代表取締役 関口 恭正
- (2) 所在地
本社・工場 大阪府大東市野崎3丁目11-2
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 代表取締役 関口 恭正 TEL : 072-872-8485
担当者 事務 安井 春奈 TEL : 072-872-8485
- (4) 事業内容
スチール・アルミ製品の焼付け塗装及び梱包
- (5) 事業の規模

主要製品生産量	41596トン
	本社・工場
従業員	40名
延べ床面積	1300㎡

- (6) 事業年度 12月～11月

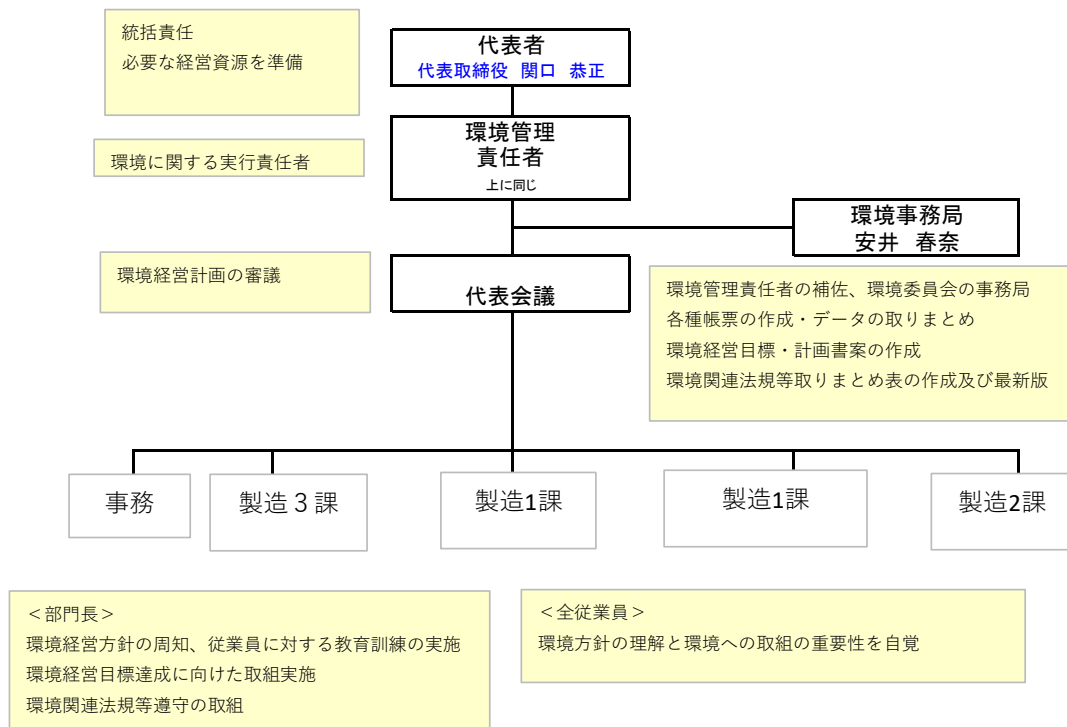
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：サン塗装株式会社
対象事業所：本社・工場
活動： スチール・アルミ製品の焼付け塗装及び梱包



□実施体制

更新日： 2022年2月10日



□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	896,377	628,810	600,840
化石燃料(scope1)	kg-CO ₂	624,846	427,502	398,256
電力(scope2)	kg-CO ₂	271,533	201,308	202,584
廃棄物排出量	t	66.0	69.0	42.6
一般廃棄物量排出量	t	1.00	0.93	0.88
産業廃棄物排出量	t	65.0	68.1	41.7
水使用量	m ³	6,208	6,614	6,521

□環境経営目標及びその実績

項 目	年 度	2023年 (基準年度)	2024年		評 価	2025年 (目標)	2026年 (目標)
			(目標)	(実績)			
二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 基準年度比	628,810	622,234 99%	600,840 96%	○	615,945 98%	609,657 97%
電力の削減	kg-CO ₂ 基準年度比	201,308	199,295 99%	202,584 101%	×	197,282 98%	195,269 97%
生産高原単位	kg-CO ₂ /kg	4.72	4.67	4.87	×		
重油の削減	kg-CO ₂ 基準年度比	167,184	165,512 99%	144,965 87%	○	163,840 98%	162,169 97%
生産高原単位	kg-CO ₂ /kg	3.92	3.88	3.49	○		
LPGの削減	kg-CO ₂ 基準年度比	231,463	229,148 99%	225,732 98%	○	226,834 98%	224,519 97%
生産高原単位	kg-CO ₂ /kg	5.42	5.37	5.43	×		
自動車燃料の削減	kg-CO ₂ 基準年度比	28,855	28,278 98%	27,558 96%	○	27,989 97%	27,700 96%
一般廃棄物の削減	kg 基準年度比	934	925 99%	882 94%	○	915 98%	906 97%
産業廃棄物の削減	kg 基準年度比	68,085	61,277 90%	41,735 61%	○	61,277 90%	61,277 90%
水使用量削減	m ³ 基準年度比	6,614	6,614 100%	6,521 99%	○	6,614 100%	6,614 100%

電力の二酸化炭素排出係数

0.434 kg-CO₂/kWh

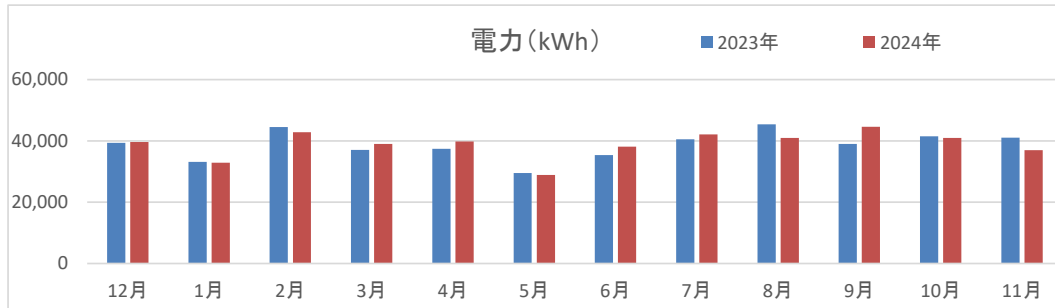
上記以外で化学物質の管理の徹底・グリーン購入・製品サービスの環境配慮についても取り組んでおります。



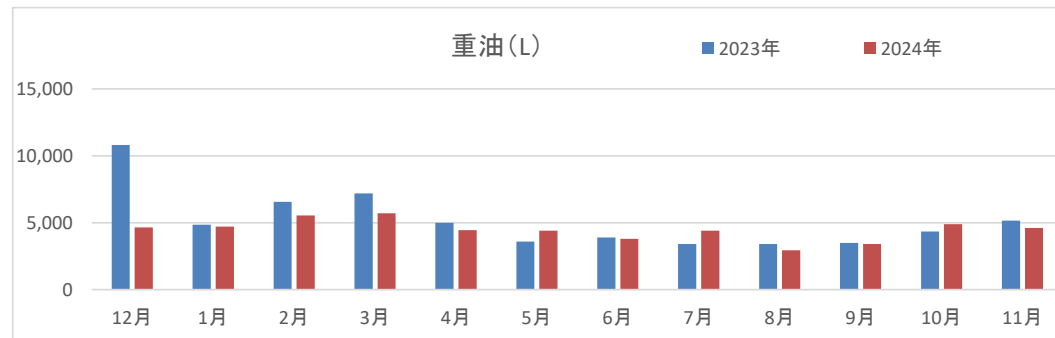
□環境活動の取り組み計画と評価

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

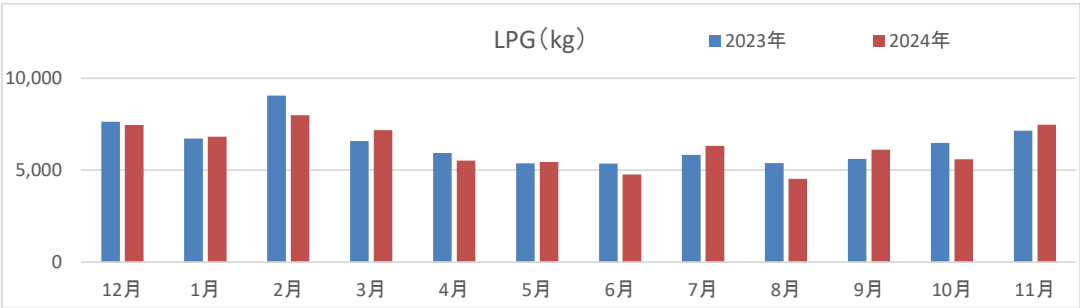
取組計画	達成状況	評 価（結果と次年度の計画）
電力の削減		
必要の無い電気をこまめに消灯・点灯を心がける	◎	後半にかけて稼働時間が昨年度より少ないのに、使用量が増えている。なぜだ。2%の壁は高い。引き続きできることをしていく。
冷房28℃・暖房20℃	◎	
照明の適正化、昼光の利用	◎	
不良率の低減	△	
生産ラインの稼働率向上	△	
製法の変更によるエネルギーの削減	△	
設備の空運転防止	△	
工程短縮によるエネルギー削減	△	



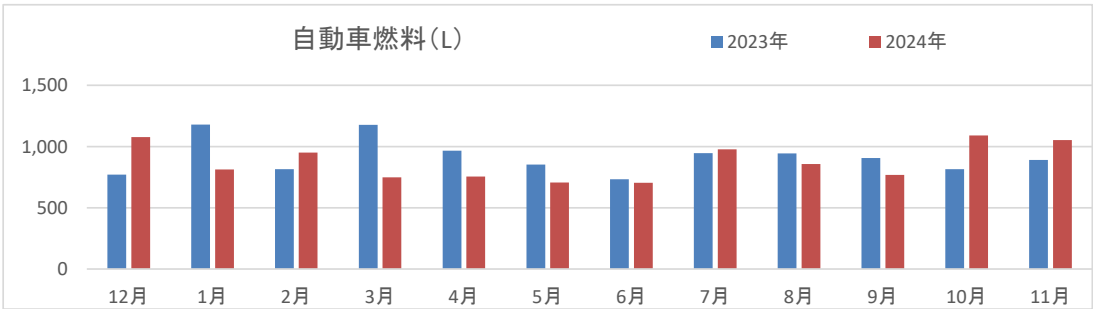
取組計画	達成状況	評 価（結果と次年度の計画）
重油の削減		
ボイラーと配管の保守・点検によるエネルギーロス削減	○	仕事量での大きな増減は無く、稼働時間は安定していた。 設備で脱脂槽内部の蒸気漏れが発生しており 使用量への影響が出ている。 今後修理及び一部入れ替え予定。
工程短縮によるエネルギー削減	△	
不良率の低減	○	



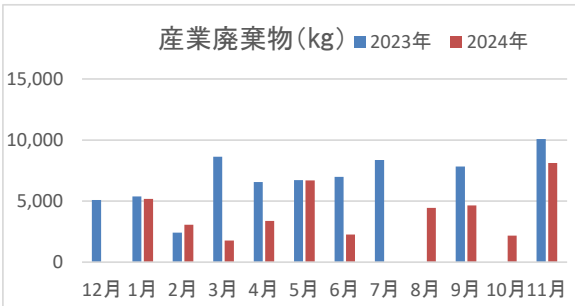
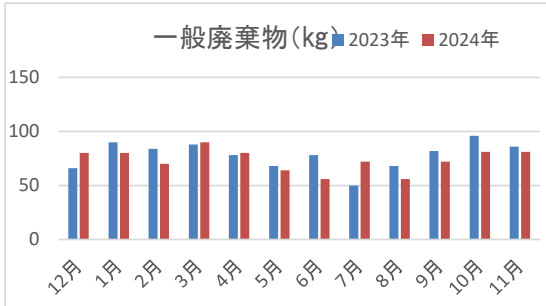
取組計画	達成状況	評 価（結果と次年度の計画）
LPGの削減		
乾燥炉・焼付炉の保温工事（済）	○	取り扱う製品の一体化が増加していると感じている。 袋状や溶接部の水切れが悪く、 予熱対応が困難になっており 目標値を超過しないよう日々調整していく。
工程短縮によるエネルギー削減	△	
不良率の低減	○	



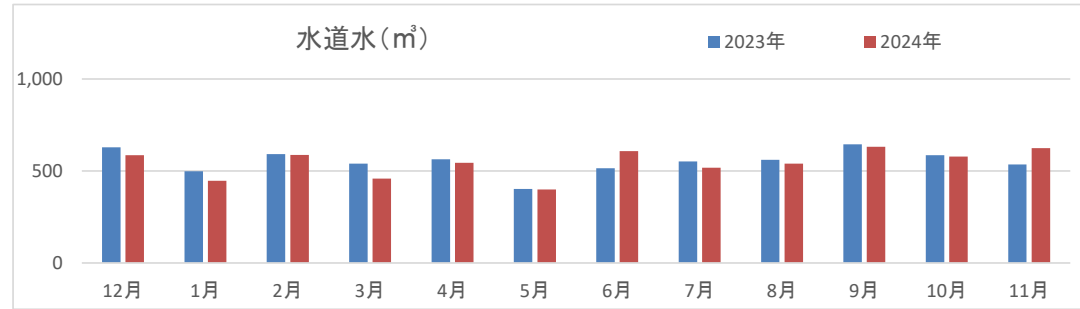
取組計画	達成状況	評 価（結果と次年度の計画）
自動車燃料の削減		
アイドリングストップ活動	○	昨年と比較すると、月によりばらつきがあるが、 効率のいい配車のおかげで達成できた。 であっても、塗装不良の引取など改善できる配車も目立った ように思う。 運転者日報も取り入れたので、活用していく。
輸送の効率化	△	



取組計画	達成状況	評 価（結果と次年度の計画）
一般廃棄物の削減		
過剰梱包削減・梱包の簡素化	◎	昨年比94%で終えた。 見た感じゴミの量自体が減っている。 再利用できるものは再利用へ、 ゴミをなるべくまとめるなど今後もできることは 徹底していく。
資源ゴミと一般ゴミとの分別作業の実施	◎	
資源ゴミのリサイクル活動	◎	
梱包資材のリサイクル化（通い箱・ダン	◎	
両面コピー・使用済み用紙の裏紙利用	◎	
産業廃棄物の削減		
産業廃棄物票（マニフェスト）をもとに廃	◎	基準年度は残土などの処理により高く推移したが、今年度より 通常値にもどった
産業廃棄物票（マニフェスト）の交付を6	◎	
産業廃棄物の再利用の検討	△	
運搬先・最終処分方法の確認	×	



取組計画	達成状況	評 価（結果と次年度の計画）
水道水の削減		
水道水削減目標説明	◎	プラント内部の蒸気漏れにより、ボイラー仕様での水量が増加している。 製品では洗浄水汚染が発生する横長形状の物が増えており、排水につながるオーバーフロー使用分は状況により対応中。 最終排水分の再利用法など協議していく。
節水呼びかけ	○	
洗浄工程の改善・見直し	○	



取組計画	達成状況	評 価（結果と次年度の計画）
化学物質の管理の徹底		
SDSの収集管理	○	有機溶剤の使用を伴い定期的な健康診断を実施し、健康管理に努めている。
リスク物質の認識	◎	
リスク物質の対策	○	
		今後も継続して化学物質管理の徹底を図る。
生産経費削減・水処理設備の改善		
前処理工程の改善検討	◎	ジルコニウム処理への設備変更計画 ・2022年5月にもものづくり補助金を申請。 ・2022年7月採択され、現実化となった。 ・2022年12月末～2023年1月4日までの工事となる。
水処 SDSの収集管 SDSの収集 SDSの収集	◎	
		ジルコニウム処理となると燃料や水が大幅に改善されると予測。また、環境問題の改善になる。
製品サービスの環境配慮		
リサイクル情報の提供	○	リサイクルできる梱包資材は繰り返し使っている。 製品によるが、過剰梱包にならないように徹底していく。 裏が使える紙は再度裏を使って印刷する。
包装材の簡易化の提案	○	
塗装の長寿命化・耐久性向上の提案	○	
塗装・製品品質向上の為の情報交換	△	
悪臭対策	○	

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定	消火器の使い方講座
日 時	2024/8/3
試行・訓練の内容	実際に火を消す消火訓練を実施。
評価	
手順書変更	手順書の変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無 （該当項目を■）



令和3年9月28日
事業継続力強化計画
認定を受けました！！



□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属屑、廃プラ、汚泥、廃油等）
大気汚染防止法	排ガス洗浄設備
騒音規制法・振動規制法	空気圧縮機
消防法（危険物）	シンナー、重油、塗料
高圧ガス保安法	LPGボンベ（技術上の基準順守）
水質汚濁防止法（改正水濁法）	表面処理設備、焼付塗装設備
P R T R 法	亜鉛の水溶性化合物、キシレン、トルエン
浄化槽法（下水道法）	除害施設（排水処理設備）
フロン排出抑制法	クーラー
労働安全衛生法	化学物質（リスクアセスメント）
悪臭防止法	近隣苦情対策

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

・節水

対象年度と比較すると、大幅に上昇傾向に目が行きがちではあるが、塗膜試験結果を良好にするためにもやむを得ないとする判断から現在に至っている。

・近隣住民

第3者機関に有害化学物質の検査を年2度実施しており、基準値以下の数値に値しています。しかし、近隣からの悪臭などの苦情に関しての苦情が寄せられる場合には真摯にこれを受け止め対策に講じなければなりません。

変更の必要性： 環境方針

なし

環境経営目標・計画
実施体制

あり
なし

実績を踏まえて見直す

□環境活動の紹介

リサイクル・再資源化促進の為、
社内で排出されたゴミを分別し、
紙・プラ・その他のゴミに分け、
廃棄物の削減に成功した。



紙・プラスチックのリサイクル化活動
社内で排出された紙・プラスチックなどを網
パレットに溜めておき、リサイクル業者（大阪
紙料さま）にて再資源化



環境やエコに理解のある関係会社に依頼し、紙やシートなどの通い化を実施し、
リサイクル・省資源化を実現。
大幅に使用資源の削減・排出物の削減を実現。